

# JWF ファンド 2015 フォローアップ 実施報告書

2017年6月  
特定非営利活動法人日本水フォーラム



## 目次

1. JWF ファンドとは.....	3
1) 概要.....	3
2) フォローアップとは.....	3
2. フォローアップ活動報告 .....	4
1) ダッカのスラム地域における雨水管理による WASH の改善 (バングラデシュ) ...	4
2) 小学校児童と住民の健康を守るための地域プロジェクト (ウガンダ) .....	7
3) バイオサンドフィルターの導入とトレーニングによる、イサンドウラ地域の慢性的な水と衛生の問題解決 (タンザニア) .....	10
4) 洪水を経験したニサッタ村にきれいな水を届けるプロジェクト (パキスタン) ..	14

## 連絡先

特定非営利活動法人日本水フォーラム

[jwffund@waterforum.jp](mailto:jwffund@waterforum.jp)

〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町 5-4 アライズ第 2 ビル 6 階

TEL: 03-5645-8040

FAX: 03-5645-8041

「JWF ファンド 2015 フォローアップ 実施報告書」(本紙)の記事および写真などの著作権は日本水フォーラムに帰属します。無断転載等はお断りします。

本紙は、日本水フォーラムがフォローアップの依頼をした現地活動団体からの報告に基づいて作成されています。

## 1. JWF ファンドとは

### 1) 概要

JWF ファンドは、草の根レベルで水問題の解決に取り組む団体を支援するために 2005 年に設立されました。この活動は、日本水フォーラムの会員の皆様からの会費や Charity for Water に寄せられた寄付等で行われています。

1 プロジェクトあたりの支援金額の上限を 1,000US ドルとすること、草の根活動を実施している現地団体の活動を支援すること、現地に適した技術と方法を用いて実施することを基本原則としています。

過去 12 年間で 156 件のプロジェクトが実施され、アジア太平洋、アフリカ、中央アメリカ、南アメリカでの受益者数は 193,000 名を越えました。

- ◆ 支援件数：156 件
- ◆ 総支援額：154,531 US ドル
- ◆ 総受益者数：193,059 人
- ◆ 水供給設備数：464 基
- ◆ 衛生設備数：393 基
- ◆ 啓発活動数：389 回

(2017 年 5 月 8 日現在)

### 2) フォローアップとは

JWF ファンドは、現場の課題やニーズに効率的かつ効果的に応えることを念頭に活動しています。2014 年以降は現地団体の協力により、フォローアップとして活動終了から一年後に課題やニーズにどのような変化が見られたか、効果や影響に関する情報収集を実施しています。

JWF ファンド 2015 では、バングラデシュ 1 件、パキスタン 1 件、タンザニア 1 件、トーゴ 1 件、ウガンダ 2 件の計 6 件を支援しました。

フォローアップ二年目となる 2017 年は、JWF ファンド 2015 で支援した 6 件のうち 4 件の団体の協力のもと、活動完了から約一年が経過した現場の状況を知ることができました。

## 2. フォローアップ活動報告

### 1) ダッカのスラム地域における雨水管理による WASH<sup>1</sup>の改善 (バングラデシュ)

#### (1) JWF ファンド 2015 プロジェクト実施概要

- 実施団体：Bashaboo Friends Association (BFA) (#006)
- 活動名：ダッカのスラム地域における雨水管理による WASH<sup>1</sup>の改善
- 実施地：バングラデシュ、ダッカ
- 実施期間：2015年12月～2016年5月
- 直接及び間接受益者数：1,600人
- 費用：1,093.78 US ドル (JWF ファンド 1,000 US ドル、自己資金 93.78 US ドル)

#### 実施地の課題

対象スラム地域の上下水道 (ママ) の普及率はわずか 40%であり、ほとんどの人が安全な水と衛生にアクセスできていない。住民たちの野外排泄などによって水源は汚染され、下痢症やコレラ、肺炎といった様々な水に関連する病気の原因となっている。

#### 実施事項

- ◆ 10 世帯に雨水貯留タンクを各 1 基設置
- ◆ 地域共有の雨水貯留タンクを 2 基設置
- ◆ 地域共有のトイレを改修
- ◆ WASH 改善のための野外ワークショップを 10 回開催

これらの活動により、対象スラム地域の住民が雨水と衛生設備を使用できるようになったため、水の購入費と水に関連する病気の削減が期待される。

#### JWF ファンド 2015 実施前の様子



対象のスラム地域はゴミがあふれている



改修前の既存トイレ

<sup>1</sup> Water, Sanitation, and Hygiene

## JWF ファンド 2015 実施の様子



地域共有の雨水貯留タンクの設置

## JWF ファンド 2015 実施後の様子



改修された既存トイレ

### (2) フォローアップ結果

フォローアップは、2017年4月30日、Mr. Md. Mozammel Haque (BFAのスタッフ)により実施。

#### ◆ 雨水貯留タンク

世帯ごとの雨水貯留タンクは、各世帯の住民によって適切に維持管理されている。住民たちは、溜まった水を主に洗濯や食器洗いに使用しており、水の購入費が削減できていることに満足している。また、地下水の利用が減った。

地域共有の雨水貯留タンクは、担当者であるバブ・ロークナス・ダスさんのもと、住民が設立した清掃委員会により、週交代制で適切に維持管理されている。130世帯543人以上がこのタンクを使用しており、溜まった水は、洗濯や食器洗い、手洗い、水浴びに使用している。これにより、水の購入費を節約できている。

#### ◆ トイレ

改修した地域共有のトイレは、住民によってきれいに利用されており、悪臭は発生していない。住民による清掃委員会によって維持管理されている。住民たちは壊れたトイレが改修され、使いやすくなったことに満足している。

#### ◆ 啓発活動参加者の意識変化

WASH改善のための野外ワークショップに参加した住民の意識や行動に良い変化が見られた。彼らは雨水の利用について理解し、400人以上の小学児童は、ワークショップで学んだより良い衛生習慣を実践している。この啓発活動の実施、そして脆弱な地域へ確実に衛生サービスを提供するための更なる資源を確保するために、地域の市民団体や地域リーダーといった様々な関係者との繋がりが構築された。

## 現場からの声

### ◆ カビールさん（男性、雨水貯留タンクの所有者）

私の家に設置された雨水貯留タンクには満足しています。水道サービス以外の水源を得ることができ、水の使用料が減っています。

### ◆ チッタランジャンダスさん（男性、55歳、スラム地域のリーダー）

私はこの地域のリーダーを務めています。これまで、この地域では不衛生なトイレ等について、住民から不満の声がありました。JWFの支援により、トイレ2基の改修と雨水貯留タンクの設置がなされ、衛生的な設備があることに地域住民は喜んでます。今や不満の声はなく、みんなが幸せです。

特に雨水貯留タンクについては、水不足の解決に最適です。 私たちは雨水貯留タンクの設置の仕方を学んだので、いつでも誰でも設置できます。

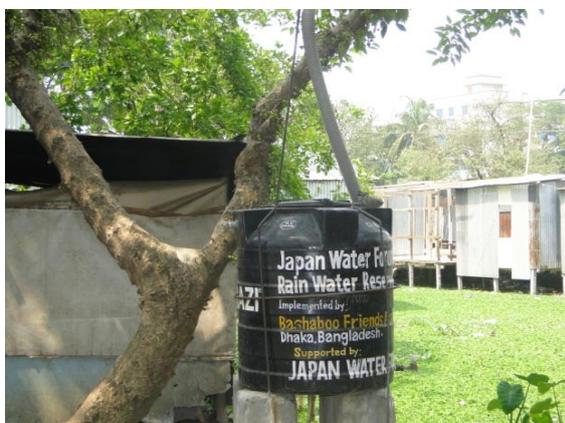
### ◆ アメナさん（女性、18歳、スラム地域の住民）

台所と共用トイレがとても近く、料理をしている時に誰かがトイレを使っていると、カレーの臭いより嫌なにおいがしていました。今はトイレが改修されたので、問題がなくなりました。今ではすぐトイレを使え、清掃も簡単です。以前より生活環境が良くなりました。

## 得られた教訓

BFAは、地域住民からプロジェクトの実施がこの地域の衛生の改善に重大な影響を与えていることが分かった。地域の自治会メンバーは、「低コストの取り組みだが、スラム地域の住民に大きな利益を与えることができる」と述べた。また、地域のリーダーを務めるチッタランジャンダスさんは、雨水貯留タンクは水不足の解決に最適だと話した。本プロジェクトを実施したスラム地域の近隣には、衛生サービスを必要とするスラム地域がいくつかあり、BFAはダッカ市内の異なるスラム地域においてプロジェクトを計画している。

## フォローアップの様子



JWF ファンド 2015 で設置した地域共有の雨水貯留タンク



JWF ファンド 2015 で改修したトイレ

## 2) 小学校児童と住民の健康を守るための地域プロジェクト (ウガンダ)

### (1) JWF ファンド 2015 プロジェクト概要

- 実施団体 : Roco Paco Community Based Organization (Roco Paco CBO)(#008)
- 活動名 : 小学校児童と住民の健康を守るための地域プロジェクト
- 実施地 : ウガンダ、北部地域
- 実施期間 : 2015年12月~2016年5月
- 受益者数 : 直接受益者数 500人 (Alliance 小学校の児童 270人、児童の保護者 130人、中等学校教員 20人、中等学校への訪問者 80人)、間接受益者数 176人 (女性 102人、男性 74人)
- 費用 : 1,180 USドル (JWF ファンド 1,000 USドル、村のリーダーたちより 180 UDドル)

### 実施地の課題

ウガンダの農村部における上水設備の普及率は30%ほどで、住民たちは安全な水を得るために3キロ以上離れた場所へ水を汲みに行かなければならない。また、農村部では林での野外排泄が習慣となっており、コレラや腸チフス、マラリアにかかる人が多い。

### 実施事項

- ◆ トイレを1基建設
- ◆ 既存のトイレ1基を改修
- ◆ 衛生に関するワークショップを開催

これらの活動により、Alliance 小学校に通う児童や児童の保護者、教師、学校への訪問者などが改善したトイレを使用できるようになり、学習環境の改善が期待される。

### JWF ファンド 2015 実施前の様子



Alliance 小学校の既存トイレ

## JWF ファンド 2015 実施後の様子



建設したトイレと Alliance 小学校の生徒たち



建設したトイレと教頭のララム・アグネスさん

### (2) フォローアップ結果

フォローアップは、2017年2月10日 Mr. Darius Ahuma (Roco Paco CBO のスタッフ) により実施。

#### ◆ トイレ

建設・改修したトイレはそれぞれ適切に使用されており、児童とその保護者が週交代制の定期的なトイレの清掃を継続して行っている。肥溜めに溜まった糞尿の分解を促進するため、灰と化学肥料を用いている。

維持管理にかかる費用の一部は、学期ごとに児童から集金し、積み立てられている。

#### ◆ その他

地方行政が学校の衛生検査を行う、また、地方行政や地域住民によるグループが住民を対象とした衛生に関する啓発活動を行うなど、地域での連携が続いている。

### 現場からの声

#### ◆ ララム・アグネスさん (女性、32歳、Alliance 小学校の教頭)

トイレが使えるようになって、とても快適です。以前は一度に2人しかトイレを使えませんでした。プロジェクトのおかげで13人が使えるようになりました。学校の衛生環境が改善され、児童の出席率が増えました。学校が休みの期間のトイレ掃除について、地域住民と対立することもありましたが、今はその期間は地域住民がトイレ掃除を担当することになっています。

#### ◆ アウマ・クラレさん (女性、Alliance 小学校の児童)

トイレが使えるようになって、とても助かっています。学校の近くに住む人びとの中には無料でトイレを使うことを希望する人もいましたが、村長が解決してくれました。

#### ◆ オキディ・ジェームスさん (男性、52歳、Alliance 小学校に通う児童の保護者)

このプロジェクトのおかげで、家族の生活環境がより良くなりました。ワークショップで水と衛生、健康について学んだ後、私は自宅にごみ捨て場とトイレ、水浴び場を作りました。それまで、私の子どもは1学期に7回病気にかかっていましたが、今は3回に減りました。 Roco Paco CBO が開催したワークショップのおかげで正しい情報と知識を得られ、村の人びとは材料の収集や衛生管理に積極的になりました。おかげでみんなが幸せで健康な村になりました。

### **得られた教訓**

継続した啓発活動と事後のモニタリングを行うことにより、地域住民の問題認識と行動を変えることができる。 誰もトイレを建設することで野外排泄というこの地域の悪い習慣を変えることができると信じていなかった。受益者に受け入れられた適切かつ持続可能な戦略により、地域の住民たちが自身の健康を維持管理できるようになった

### **フォローアップの様子**



JWF ファンド 2015 で建設したトイレと  
教員たち (左)、Roco Paco CBO スタッフ (右端)



Alliance 小学校児童へのグループインタビュー

### 3) バイオサンドフィルターの導入とトレーニングによる、イサンドウラ地域の慢性的な水と衛生の問題解決（タンザニア）

#### (1) JWF ファンド 2015 プロジェクト概要

- 実施団体：Right Livelihood and Empowerment Organization (RLEO) (#034)
- 活動名：バイオサンドフィルターの導入とトレーニングによる、イサンドウラ地域の慢性的な水と衛生の問題解決
- 実施地：タンザニア、ムワンザ州
- 実施期間：2015年12月～2016年5月
- 受益者数：直接受益者397人（女性120人、男性72人、イサンドウラ小学校児童205人）
- 費用：1,424 USドル（JWF ファンド1,000 USドル、村長や開発委員会から424 USドル）

#### 実施地の課題

イサンドウラ村、イルング村、イヒンビリ村の住民たちは慢性的な安全な飲み水の不足に悩まされている。特に乾季の間、住民たちは汚れた池の水を使用している。安全な飲み水を得るために、女性や女兒たちは約6キロ離れた井戸に水を汲みに行かなければならない。これにより、女性や女兒たちが性的暴行を受ける危険が増え、また、女兒は学校に通う機会を奪われている。

#### 実施事項

- ◆ バイオサンドフィルタータンク1基をイサンドウラ村に導入
- ◆ 石鹼作りのトレーニングを実施
- ◆ 衛生と健康に関する啓発活動を2回実施
- ◆ 生理用品を村の女兒に配布
- ◆ 維持管理チームと村の環境委員会を設立
- ◆ 水質検査を実施

これらの活動により、住民が安全できれいな水を使用できるようになったため、特に女性や女兒たちがより良い暮らしを送ることができると期待される。

## JWF ファンド 2015 実施前の様子



イサンドウラ村の池から水を汲む女性たち

## JWF ファンド 2015 実施後の様子



完成したバイオサンドフィルタータンク

### (2) フォローアップ結果

フォローアップは、2017年5月16日 Mrs. Anna Maria Mbasha (RLEOのスタッフ) により実施。

#### ◆ バイオサンドフィルタータンク

バイオサンドフィルタータンクは、住民によって適切に利用され、維持管理されている。維持管理について住民同士の対立や維持管理方法の誤解などは見られなかった。これは、維持管理方法に関するワークショップを実施したことと村の環境委員会が積極的に維持管理を手伝っていることが要因であると考えられる。

フィルターには大小さまざまな砂が使われており、間もなく2回目の交換が行われる予定である。

タンクの容量は、住民の需要に対して十分である。しかし、プロジェクトが完了して最初の1カ月間はたくさんの住民が水を汲みに集まったため、タンクの容量が足りなくなったことがあった。

また、RLEOの調査により、バイオサンドフィルターの導入後、以下の変化が報告された。

- 3つの村の住民が遠くまで水を汲みに行く必要がなくなり、いくつかの世帯は自宅に同じ構造の設備設置に取り組んでいる。
- 下痢症やコレラなど水に起因する病気の発生が減った。  
例えば、コレラの発生件数は2014年に12件報告されていたが、1件に減った。
- 女性たちは今まで水汲みに費やしていた時間を農業の準備に充てることができるようになった。また、女性や女兒たちの性的暴行の被害が大幅に減り、夫婦間の信頼関係が高まった。今では男性も水汲みを行い、フィルターの交換などを手伝

っている。

- 女兒たちは学校に行く機会を得たことに喜んでおり、登校率は女兒・男児共に改善された。
- 女兒たちは今ではきれいな水を使うことができるようになり、今まで月経中のおいを男児に笑われることを避けるために授業を欠席することが減った。

#### ◆ 石鹼作りのトレーニング

住民たちは村に自生する木の葉っぱを用いて簡単に石鹼を作ることができると知り、喜んでいる。2017年3月には、原料となる木を村に更に植えることが決定された。

#### ◆ 衛生と健康に関する啓発活動

啓発活動により、児童たちは野外排泄の危険性や水に関連する病気について理解を深めた。児童たちは野外排泄をしなくなり、トイレの後や食事の前に石鹼で手を洗うなどのより良い衛生習慣と行動を実施している。

#### ◆ 維持管理チームと村の環境委員会

どちらも活動を続けているが、維持管理チームは資金不足により、いくつかの活動を実施できていない。

### 現場からの声

#### ◆ エングワナ・サングウィさん（女性、44歳、村の住民）

バイオサンドフィルタータンクはとても良く機能しています。プロジェクトが実施される前、私たち女性は夜中に起きて家族の為に遠くまで安全できれいな水を汲みに行かなければいけませんでしたが、今はその必要がなくなりました。ですが、今でもまだきれいな水がこの村には必要です。

#### ◆ エンジレ・クイさん（女性、13歳、村の住民）

バイオサンドフィルターができて、とても助かっています。以前のように授業を欠席することもなくなり、今は問題なく学校に毎日通えています。将来的に、この装置が増えたらいいと思います。そうすれば、水をろ過しに集まった人々の待ち時間が減るからです。

#### ◆ ビブンザ・エンシャビさん（男性、50歳、村の住民）

私の家族はバイオサンドフィルターを利用して、妻はバケツに5リットルの水を汲んで家に帰ってくることもあります。

このプロジェクトのおかげで、妻や娘の生活が変わりました。以前は、家族の為にきれいな水を見つけることに苦労していました。いま、この村の一番の問題は日中の暑い時間帯に安全な水を得ることです。

## フォローアップの様子



JWF ファンド 2015 で設置したバイオサンドフィルタータンクから水を汲む女性と女兒

#### 4) 洪水を経験したニサッタ村にきれいな水を届けるプロジェクト (パキスタン)

##### (1) JWF ファンド 2015 プロジェクト概要

- 実施団体 : Shama Social Village Development Organization (#035)
- 活動名 : 洪水を経験したニサッタ村にきれいな水を届けるプロジェクト
- 実施地 : パキスタン、チャルサダ郡
- 実施期間 : 2015年12月～2016年5月
- 受益者数 : 直接受益者 270人、間接受益者 550人
- 費用 : 4,647US ドル (JWF ファンド 1,000 US ドル、Shama Social Village Development Organization と現地コミュニティより 3,647 US ドル)

##### 実施地の課題

対象地域は、川と運河、その支流に囲まれ、水関連の自然災害に脆弱である。2010年の洪水では深刻な被害を受け、井戸などの飲み水の水源が失われた。貧しい住民のほとんどは、いまだきれいな水源のない生活を強いられている。

##### 実施事項

- ◆ ハンドポンプ 10 基を設置
- ◆ 各ハンドポンプに排水管を設置
- ◆ 洗濯場 10 個を設置
- ◆ 公衆衛生プログラムを 2 回実施
- ◆ 維持管理委員会を設立

これらの活動により、対象地域の住民が安全な飲み水を確保できるようになったため、汚染された水に起因する病気の減少が期待される。

##### JWF ファンド 2015 実施前の様子



洪水により故障した既存のハンドポンプ



既存の井戸から水を汲む子どもたち

## JWF ファンド 2015 実施後の様子



完成した井戸から水を汲む子どもたち



きれいな水は家畜にも与えられる

### (2) フォローアップ結果

フォローアップは、2017年5月1日～21日にかけて Mr. Qayyum Badsha (Shama Social Village Development Organization のスタッフ) により実施。

#### ◆ ハンドポンプ

10基のハンドポンプは、住民により適切に使用されており、維持管理委員会が管理している。2015年のプロジェクト実施後、地域の住民たちが自力で同じ構造のハンドポンプを5基設置した。このハンドポンプは取水口が閉じられており、洪水によって水源が汚染される心配がない。地域の医師によると、汚染された水に起因する病気の発生率が以前に比べて6割に減った。

#### ◆ 維持管理委員会

村の住民による維持管理委員会は、月に一回、利用者から維持管理費を徴収し、帳簿に記録を取って適切に管理している。

#### ◆ 洗濯場と排水管

各ハンドポンプに設置された洗濯場は適切に利用されており、排水管にも破損等は無かった。

### 現場からの声

#### ◆ グルシャーン・ベベさん（女性、47歳、ニサッタ村の住民）

このハンドポンプができる前は、開口式の井戸からロープを使って水汲みをしていました。また、病気の原因が汚染された水であると知らなかったため、毎年、治療費としてたくさんのお金を病院に支払っていました。でも今は、子どもでも簡単に家の近

くのハンドポンプからきれいな軟水を汲むことができます。きれいな水を利用できるようになり、私たちは健康面の安全と生活に良い影響が出ていると感じています。 Shama Social Village Development Organization と JWF に感謝します。私たちのように、洪水の被害にあった貧しい世帯は、このハンドポンプのおかげで助かっているでしょう。しかし、この村にはまだ適切な衛生設備がなく、安全できれいな水を利用できない貧しい世帯もまだあります。

◆ アエシヤ・グルさん（女性、17歳、ニサッタ村の住民）

家の近くから安全できれいな水を汲むことができるようになり、とても助かっています。私や私の家族は、飲用や洗濯用、家畜用としてハンドポンプの水を使っています。ハンドポンプができてから、家の近くから安全な水が汲めること、汚染された水による病気が減ったこと、きれいで安全な水に関する衛生教育と啓発がこの地域で可能になったことなど、良い変化がありました。

将来的に、私の同級生や女の子たちの衛生環境について、

- ・ 最も貧しい地域の人たちも、ハンドポンプのきれいな水を利用できるようになること
  - ・ 子どもたちがかかりやすい汚染された水に起因する病気を減らすために、きちんとした衛生設備を作ること
  - ・ この村や近隣の地域でこのプロジェクトのような取り組みを続けるための資金集めのために、ゴミの管理とリサイクルの仕組みをつくる
- といったことがとても必要だと思います。

◆ サディグ・アクバールさん（男性、37歳、ニサッタ村の医者）

このハンドポンプのおかげで、私の家族や地域の人びとが簡単にきれいで安全な水を得られると分かりました。ハンドポンプが設置される前は、既存の開口式の井戸に限られたわずかな時間を割いて水を汲みに行っていました。ハンドポンプが設置されてきれいな水を使えるようになってから、女性や女兒が水に起因する病気にかかる率は少なくなりました。私の診療所に来る患者の8割が女性や女兒でしたが、いまは2割に減りました。 Shama Social Village Development Organization と JWF に感謝します。

## フォローアップの様子



JWF ファンド 2015 で設置したハンドポンプから水を汲む村の住民と子どもたち

以上